



## Contents

- 1 | トップインタビュー
- 5 | トピックス
- 裏表紙 | IRウェブサイトのご案内  
IRメール配信登録のご案内  
株主メモ、株主様向け企画のご報告



## 2022年度通期業績 および今後の展望について

代表取締役 社長執行役員・CEO

大山 晃

### 1

#### 2022年度通期の業績について教えてください。

2022年度は、国内において新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が緩和され、さまざまな経済活動の正常化を促す施策が行われたことで、緩やかな景気回復基調が見られました。しかしながら、継続する国際情勢の緊迫化、資源価格の高騰や、インフレ、円安の進行など、グローバルビジネスにおける景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。

このような環境の中、当社におきましては、部材逼迫や中国におけるロックダウンなどによる生産影響、また海上輸送費・原材料価格高騰などのコスト上昇の影響を受けました。特に、

複合機などの製品供給遅れ、ICT商材不足は、オフィスプリンティング事業だけではなく、成長領域であるオフィスサービス事業の販売活動にも影響を与えました。これに対し、リコーグループでは各ビジネスユニットにおいて自律的に体質強化や経費コントロール、価格政策に取り組み、成長に向けた投資を着実に実行してまいりました。これらの取り組みの結果、当年度の連結売上高は21.4%増の21,341億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は543億円となりました。

事業別ではリコーデジタルサービスのオフィスサービス事業は、国内において電子帳簿保存法改正やインボイス制度対応などICT商材に依存しないソリューション強化に取り組み、下期にはスクラムパッケージの販売本数として過去最高を記録しました。加えてシステムの運用代行やセキュリティ関連サービスも好調で、スクラムアセットの販売も堅調に推移しました。欧州においては、買収したITサービス会社の業績が好調に推移するなど、売上高を伸ばしました。さらにリスキルによりオフィスプリンティングからオフィスサービスへカスタマーエンジニアやセールスのシフトを進めるなど、オフィスサービス事業拡大に向けて着実に体制強化・拡充を行っています。

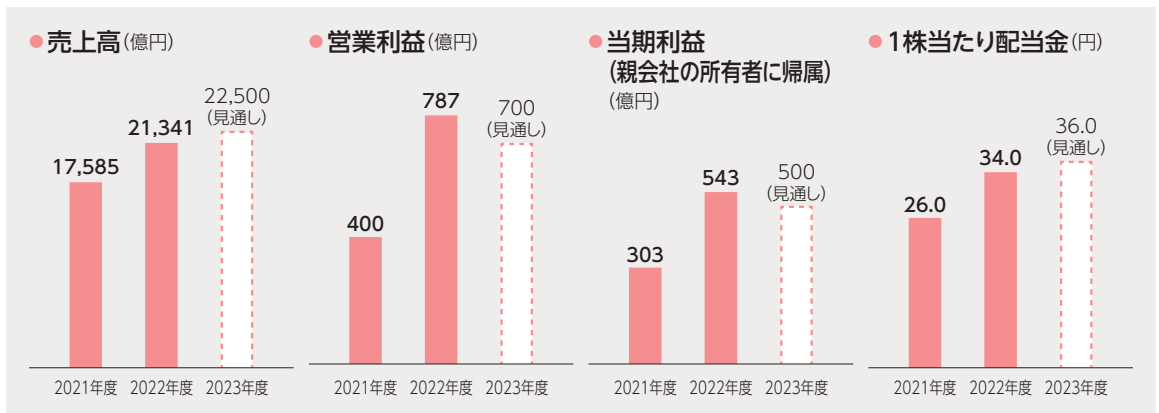
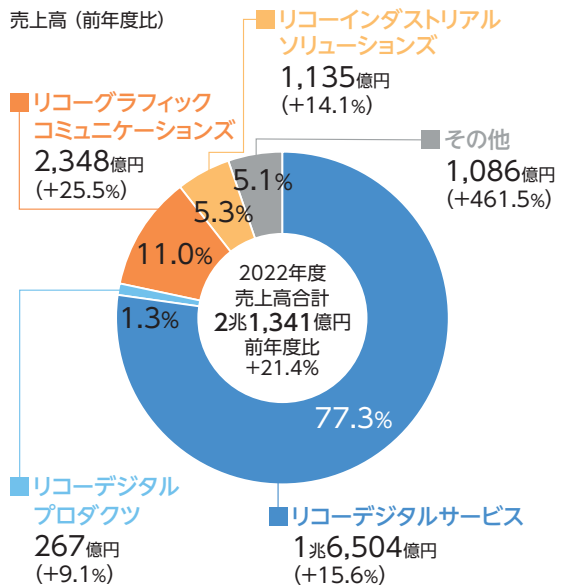
米州においても、コミュニケーションサービスを展開する米国のCenero社の買収を完了するなど提案力強化を進めました。オフィスプリンティング事業での売価政策や体質強化も進展し、全体では増収増益を達成しました。

リコーデジタルプロダクツは、部材不足や中国でのゼロコロナ政策とその後の新型コロナウイルス感染症拡大により生産活動に影響が出たものの、設計変更による複数部品対応など取り組んできた生産施策の効果により前年度と比べて生産量は増加し、増収となりました。リコーグ

ラフィックコミュニケーションズは、欧米の経済活動の回復により商用印刷事業の売上高が増加、産業印刷事業もインクジェットヘッドが堅調に推移し、増収増益となりました。

リコーインダストリアルソリューションズはサーマル事業において原材料費・燃料費高騰、産業プロダクツ事業では中国のロックダウン等による自動車関連顧客の減産影響を受けましたが、機動的な価格政策等で補い、増収増益となりました。

### 事業別売上高 ※外部顧客向け



## 2

### 新社長としての所信や大事にしていることを教えてください。

私の経営のよりどころは創業の精神である「三愛精神」です。「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」の言葉にあるとおり、事業に関わる人たちの利益を考え、社会課題の解決に貢献し、“はたらく” 喜びを感じられる環境を作り上げていきたいと考えております。創業者 市村 清は新た

な発想で数多くの事業を成功させてまいりました。私のモットーは「大胆かつ細心」です。大胆な発想でのジャンプは必要ですが、それが裏打ちのない無謀な試みにならぬよう、創業者の実行力を見習い、結果を出してまいります。

## 3

### 第21次中期経営戦略について教えてください。

#### ～“たすき”の継承と進化～

#### これまで築き上げてきたものをベースに、デジタルサービスの会社への変革を成し遂げる

当社は「“はたらく”に喜びを」という言葉を使命と目指す姿に掲げ、これまで組織・風土・制度におけるさまざまな施策を展開し、デジタルサービスの会社への変革を進めてきました。私は、山下(前社長)からのたすきを受け継ぎ、第21次中期経営戦略(以下、21次中経)においてさらに磨きをかけ進化させてまいります。

21次中経の財務目標は、2025年度に営業利益1,300億円、ROE9%超です。昨今の不測の経営環境変化やオフィスプリンティング事業のノンハード回復が想定ほど見込めないと判断したことなどから、掲げていた目標の達成が将来にずれ込む想定といたしました。ただしROE10%超の実現は継続して目指してまいります。また、事業成長とそれを支える資本政策により、株主の皆様の期待に応える持続的な企業価値の向上を実現していきたいと考えています。

21次中経においては、デジタルサービスの会社として、従来のオフィスプリンティング事業を

主とした収益構造からの変革を加速しています。また、柔軟な生産供給体制を構築し、環境変化への対応力を向上させていくとともに、現場でのデジタルサービス領域において新たな収益の柱を構築してまいります。

現在の5つのビジネスユニットの運営体制は変わりません。引き続きオフィスの領域が成長領域となりますが、現場・社会の領域についても着実に成長していきたいと思っています。デジタルサービス売上の比率は現在、44%となりますが2025年度には60%超を目指します。

21次中経では、3つの基本方針

- ① 地域戦略の強化とグループ経営の進化
- ② 現場・社会の領域における収益の柱を構築
- ③ グローバル人材の活躍

を掲げています。

#### ① 地域戦略の強化とグループ経営の進化

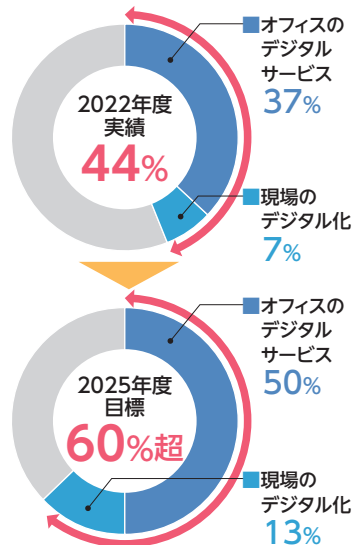
高収益なデジタルサービスストックを積み上げ、継続した収益性向上を実現するためには、各地域の顧客接点における価値創造能力の向

分野別 売上高・営業利益 (億円)

分野(ビジネスユニット)	2025年度 目標		主な事業
	売上高 (CAGR:年平均成長率)	営業利益 (2022年度からの増減)	
リコーデジタルサービス	17,500 (2.0%)	600 (+317)	オフィスサービス オフィスプリンティング エッジデバイス
リコーデジタルプロダクツ	4,200 (△1.6%)	340 (+24)	
リコーグラフィック コミュニケーションズ	2,800 (6.0%)	180 (+34)	商用印刷 産業印刷
リコーインダストリアル ソリューションズ	1,600 (11.2%)	120 (+88)	サーマル、産業設備など
リコーフューチャーズ	△2,600	60 (+48)	Smart Vision、PLAiR*1 など
グループ本部			
合計	23,500 (3.3%)	1,300 (+512)	

デジタルサービス売上の変化

※ その他事業を除く



\*1 PLAiR(プレアール)：植物由来で生物解性をもつプラスチックの代替となる新素材

上、リコーグループ内でのシナジー発揮、環境変化への対応力をつけていくことの3つが重要になります。

② 現場・社会の領域における収益の柱を構築

オフィス以外の領域である現場は、まだまだアナログの業務が多く存在し、それらのデジタル化を起点に当社のテクノロジーをもって新たなビジネスを開発していきたいと考えています。さらに、社会課題の解決に直結するビジネスも生み出していきます。

③ グローバル人材の活躍

デジタルサービスの会社への変革には、実行を担う人的資本の強化が必要です。社員一人あたりの稼働力を高めることを意識し、全社員にデジタルスキルを身に付ける研修を行い、また、実際にお客様にデジタルサービスを届ける人材の育成にも取り組みます。社員個人の成長と事業の成長を同時に実現していくことで、社員エンゲージメントの向上と変革の実行が両立できると考えています。

4

今後の株主還元について教えてください。

2023年度の配当については、1株当たり2円増配して年間36円を予定し、配当利回りを勘案した配当を実施したいと考えています。2023年度以降も、総還元性向<sup>\*2</sup>50%を目安とする方針を堅持し安定的な配当を行っていく方針です。

経営環境や成長投資の進捗も踏まえつつ、最適資本構成の考え方に基づき、今後も機動的かつ適切なタイミングで自己株式取得も実施しながら、企業価値最大化を目指してまいります。

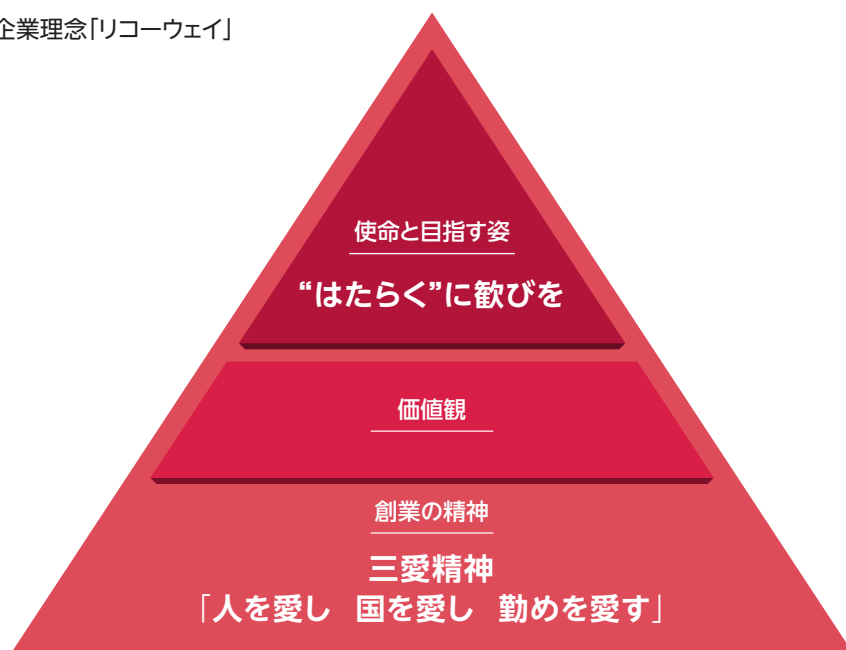
\*2 総還元性向：(配当支払総額+自社株買い総額)÷純利益×100

### 企業理念の改定

#### 「“はたらく”に喜びを」を、「使命と目指す姿」に

リコーグループの日々の判断や活動の基礎となる普遍的な理念である「リコーウェイ」を2023年4月1日付で改定しました。これまでの「私たちの使命」および「私たちの目指す姿」を統合し、当社が100周年を迎える2036年に向けた長期ビジョンとしていた「“はたらく”に喜びを」を新たに「使命と目指す姿」と決めました。当社は創業以来、世の中の“はたらく”を支え、進化させてきました。社員一人ひとりが自律的に働く中で、はたらく喜びを感じ、生み出した価値でお客様のはたらく喜びを支える。そんな喜びの連鎖を拓けていくことで、働きがいと経済成長が両立する持続可能な社会への貢献を目指します。

#### ■企業理念「リコーウェイ」



● 詳しくは企業理念「リコーウェイ」をご覧ください。▶ <https://jp.ricoh.com/about/ricoh-way>

### 中堅・中小企業における経理業務DX促進に向けSansanと業務提携に合意

#### 「Bill One for RICOH」の提供により、インボイス制度などの法対応も実現

中堅・中小企業の経理業務のデジタル化と、2023年10月に開始されるインボイス制度などの法対応の推進を目的とした業務提携にSansan株式会社と合意しました。企業間の商取引に関わるデジタル化を促進し、全国の中堅・中小企業のお客様に地域密着の伴走型サポートでDXによる業務改善を支援します。

● 詳しくはニュースリリースをご覧ください。▶ [https://jp.ricoh.com/release/2023/0406\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2023/0406_1)

## トンネル工事現場にローカル5G活用

### バーチャル空間での360度ライブストリーミングにより 遠隔地からリアルタイムでの施工状況の確認を実現

株式会社竹中土木、株式会社演算工房、日鉄ソリューションズ株式会社、当社の4社は、国土交通省が目指すデジタルツイン\*の実現に向け、トンネル工事としては初めてローカル5Gとバーチャル空間での360度ライブストリーミングを活用し、遠隔地からリアルタイムで施工状況を自由視点で確認できるシステムを構築しました。2023年1月より開始した実証実験にて活用し、このたび国土交通省の実証確認を得ました。デジタルサービスで課題を解決する領域を現場・社会へと広げていきます。

※ デジタルツインとは フィジカル空間の情報をリアルタイムでサイバー空間に再現し、シミュレーションなどで現実世界の変化を予測する技術

● 詳しくはニュースリリースをご覧ください。▶ [https://jp.ricoh.com/release/2023/0328\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2023/0328_1)

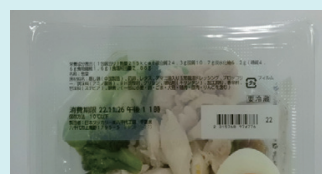
## ラベルレスサーマルが大手コンビニエンスストアのサラダパッケージに採用

### 環境負荷低減、作業効率化、生産性向上に貢献

サーマル印字技術「ラベルレスサーマル」が、2022年11月から株式会社ローソンの2種類のサラダパッケージに採用されました。サーマルインクを包装材であるフィルムに部分コーティングし、その部分にサーマルヘッドやレーザー装置で熱を加えることにより直接印字することで商品名や原材料などの情報が天面の包装資材に直接印字できるため、これまでパッケージに貼り付けられていた紙ラベルが不要となりました。

ラベルレス化により

- 商品内容物の視認性向上
- 原材料が底面→表面に表示され、栄養成分やアレルギー情報の視認性が向上



株式会社ローソン 2022年11月25日プレスリリースより

● 詳しくはニュースリリースをご覧ください。▶ [https://jp.ricoh.com/info/2023/0214\\_1](https://jp.ricoh.com/info/2023/0214_1)

## 社外からの評価

当社の企業活動は、世界のさまざまな評価機関に認められ、高い評価をいただいています。2023年1月には当社が世界で最も持続可能なGlobal 100社に選出されました。環境配慮製品、役員報酬でのサステナビリティ指標の導入、再生可能エネルギーの導入・推進など、気候変動対策に向けた取り組みにおいても高い評価をいただき通算11回目の選定になります。現状に満足せず、さらに高いレベルを目指してまいります。

■ 持続可能な企業100社を選定



● 詳しくは社会からの評価ページをご覧ください。▶ <https://jp.ricoh.com/about/ataglance/evaluation>

## IRウェブサイトのご案内

当社IRウェブサイトでは「デジタルサービスの会社に向けた取り組み」や「事業を通じて社会課題解決に貢献する取り組み」を動画などを活用してご紹介しています。



こちらよりご覧ください▶①

## IRメール配信登録のご案内

株主の皆様へ決算情報やニュースリリース、その他のIR情報を電子メールでお知らせしております。ご希望の方は、当社IRウェブサイトよりご登録の手続きをお願いいたします。

こちらよりご覧ください▶②

※ 本サービスは携帯電話メールには対応していません。

「リコー IR」で検索し、  
IRウェブサイトへ

リコー IR 検索



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

単元株式数 100株

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 (電話照会先) 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL (0120) 782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の  
全国各支店で行っております。

### ●住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、特別口座にて株式を管理されていらっしゃる株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

### ●「配当金領収証」の送付について

従来、配当金のお支払金額が5万円以上の場合に簡易書留で郵送させていただいておりましたが、2020年9月30日基準の中間配当金の送付より、配当金のお支払金額が10万円以上の場合に簡易書留での郵送とすることに変更させていただきました。

### 株主様向け 企画の ご報告

#### 2023年1月 販売接点活動をご紹介するオンライン見学会開催

日常の販売接点活動では、お客様へどのような方法で社内実践の共有や課題解決提案を行っているのかを、株主の皆様へご理解を深めていただきたく、オンライン形式で開催しました。ご参加いただいた株主の皆様からは、当社の取り組みをよく理解できたとお声もいただいております。本年度も企画を検討中です。

詳しくは株主様向け企画・優待ページをご覧ください。▶ <https://jp.ricoh.com/IR/yutai>

株式会社リコー



見やすく読みまちがえ  
にくいユニバーサルデ  
ザインフォントを採用  
しています。

